

氏 名	原田 朋子
学 位 の 種 類	博士（ 医学 ）
学 位 記 番 号	第 6273 号
授 与 報 告 番 号	甲第 3558 号
学位授与年月日	平成 28 年 3 月 22 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 項該当者
学 位 論 文 名	Clinical Features of Japanese Males with Anorexia Nervosa (日本における神経性やせ症男性患者の臨床的特徴)
論文審査委員	主 査 井上 幸紀 教授 副 査 角 俊幸 教授 副 査 池田 一雄 教授

## 論 文 内 容 の 要 旨

【目的】神経性やせ症（Anorexia Nervosa: AN）は女性に多く見られる死亡率の高い精神疾患で、男性でも重症化が指摘されている。しかし、男性例の少なさから男性 AN 患者の研究は遅れており、日本における男性 AN 患者の受療行動を含めた特徴についてはほとんど分かっていない。本研究は、男性 AN 患者を早期介入につなげるために、男性 AN 患者の臨床的特徴について明らかにすることを目的とする。

【対象】1980 年 4 月から 2014 年 8 月までに大阪市立大学医学部附属病院神経精神科外来を受診した 2015 人の AN 患者。

【方法】過去の診療録を用いて後方視的に、AN 患者の男女比、受療行動を含む臨床的な特徴についての男女比較、男性 AN 患者の外来治療早期脱落率について検討した。

【結果】AN 患者における男性の割合は 3%（60 人）であった。受診時の平均年齢や治療の遅れに男女に有意差は認めなかった。病前体重から最低体重にいたる体重の減少率では、男性は女性と同程度の重篤さがあった。社会的背景では、男性は女性と比較して有職である割合が高かった。男性 AN 患者は、最初に受診する科として精神科を受診する傾向があった。また、女性と比較して外来通院を早期脱落する割合が高かった。

【結論】日本では臨床上 AN 患者にしめる男性の割合は、一般的に言われている約 10%よりも著しく低い値であった。摂食障害が女性の疾患であると考えられていることなどから、他の国よりも男性の受診行動は抑制されている可能性がある。男性 AN 患者も女性同様に身体的には重篤であり早期の介入は重要である。男性 AN 患者は、学生や有職者として社会参加している割合が女性 AN 患者よりも高い傾向があり、摂食障害に対して広く社会一般のみならず、学校や会社に対してより一層の啓発活動が早期介入の一助となるかもしれない。早期脱落を防ぐために、性差を踏まえた治療の検討が課題である。

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

神経性やせ症（Anorexia Nervosa: AN）は女性に多く見られる死亡率の高い精神疾患で、男性でも重症化が指摘されている。しかし、男性例の少なさから男性 AN 患者の研究は遅れており、日本における男性 AN 患者の受療行動を含めた特徴についてはほとんど分かっていない。申請者は、男性 AN 患者を早期介入につなげるために、男性 AN 患者の臨床的特徴について明らかにすることを目的とした研究を行った。

1980 年 4 月から 2014 年 8 月までに大阪市立大学医学部附属病院神経精神科外来を受診した 2015 人の AN 患者を対象とした。過去の診療録を用いて後方視的に、AN 患者の男女比、受療行動を含む臨床的な特徴についての男女比較、男性 AN 患者についての外来治療早期脱落率について検討した。

AN における男性の割合は 3%であった。受診時の平均年齢や治療の遅れに男女に有意差は認めなかった。病前体重から最低体重にいたる体重の減少率では、男性は女性と同程度の重篤さがあった。社会的背景では、男性は女性と比較して有職である割合が高かった。男性 AN 患者は、最初に受診する科として精神科を受診する傾向があった。また、女性と比較して外来通院を早期脱落する割合が高かつ

た。

日本では臨床上 AN にしめる男性の割合は、一般的に言われている約 10%よりも著しく低い値であった。摂食障害が女性の疾患であると考えられていることなどから、他の国よりも男性の受診行動は抑制されている可能性がある。男性 AN も女性同様に身体的には重篤であり早期の介入は重要である。男性 AN 患者は、学生や有職者として社会参加している割合が女性 AN 患者よりも高い傾向があり、摂食障害に対して広く社会一般のみならず、学校や会社に対してより一層の啓発活動が早期介入の一助となる可能性を示唆した。また早期脱落を防ぐために、性差を踏まえた治療の検討が課題であると結論付けた。

摂食障害患者の男性例はその報告が少なく、早期の治療介入が課題となっている。申請者は、日本における神経性やせ症患者男性例は女性同様に身体的に重篤であるものの受療行動が抑制されている可能性を明らかにした。男性例では早期介入としての学校や社会における啓発活動の重要性を示し、性差を踏まえた対応の重要性を示したものであり、博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。